

平成30年11月16日
(2018年)

保護者の皆さまへ

吹田市立山田第二小学校
校長 岡村 恵太

平成30年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「平成30年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も今年度は国語と算数に加え理科も調査対象になりました。測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことをまず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生には、よりきめ細やかな指導ができるよう取組を進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

1 教科に関する調査の分析

●国語《概要》

◎国語A区分問題（『主として知識』に関する問題）

- ◇全国、大阪府の平均正答率を大きく上回っており、概ね良好な結果であった。
- ◇無回答率が低く、基礎的・基本的な国語に関する知識・技能が身につけていると考えられる。

◎国語B区分問題（『主として活用』に関する問題）

- ◇全体としては全国値を上回っており、概ね良好な結果であった。
- ◇基礎的・基本的な国語に関する知識・技能が身につけていると考えられる。

☆国語科における成果と今後の指導改善点について

【成果と発展的指導に向けて】

〈A区分問題〉

漢字の読み書きについては、すべての問題で全国の平均を上回っている。日常の取り組みの成果であるといえる。また、文の中における主語との関係など、文の構成を問われる問題では、全国の正答率を大きく上回っている。相手や目的に応じ、伝えたいことが伝わるように文章を書く力がついていると考えられる。この結果は日常の取り組みの成果であるといえる。

〈B区分問題〉

「話すこと・聞くこと」の領域では、話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめることができるかどうかをみる設問において全国値より上回っている。「書くこ

と」の領域においても概ね良好な結果であったが、目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書くことができるかどうかをみる設問において全国値より下回った。「読むこと」は全国値を上回った。

【課題と指導改善に向けて】

〈A区分問題〉

全国平均を上回る結果となったが、目的地への行き方を説明するという設問においては、正答率としては低いほうであった。説明や報告をする、意見を述べるなどの機会を増やし、伝えたい目的を明確にし、筋道を立てて話す力を育成していく必要がある。

〈B区分問題〉

目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書くことにおいて、適切な言葉を用いて書くことはできているが、その内容についての根拠や理由を落とさず書くことに課題がある。根拠や理由を部分的に取り上げるのではなく、全ての内容を漏らさず正確に押さえていく指導が肝要である。

●算数 《概要》

◎算数A区分問題（『主として知識』に関する問題）

- ◇全国値を上回っており、概ね良好な結果であった。
- ◇基礎的・基本的な算数に関する知識・技能が身につけていると考えられる。

◎算数B区分問題（『主として活用』に関する問題）

- ◇全国値を上回っており、概ね良好な結果であった。
- ◇基礎的・基本的な算数に関する知識・技能が身につけていると考えられる。

☆算数科における成果と今後の指導改善点について

【成果と発展的指導に向けて】

〈A区分問題〉

A区分問題では、正答率が全国平均を全ての項目で上回っており、日常の算数の学習における取り組みの成果が見受けられる。

異種の二つの量のうち、一方がそろっているときの混み具合の比べ方を理解しているかどうかをみる問題や、 180° の角の大きさを理解しているかどうかを見る問題で特に正答率が高かった。今後も内容の理解を深める活動の充実を図っていきたい。

〈B区分問題〉

B区分問題における問題では、正答率は全国平均をほぼすべての項目で上回っており、日常の算数における取り組みの成果が見受けられる。図形と角度の和の関係について言葉や式を用いて表現する問題や、グラフについて読み取り言葉や数を使って書き表す問題など、数学的な考え方を測る問題で特に正答率が高かった。

また無回答率も全国平均と比べてどの問題も低い結果であった。今後も内容の理解を深め、表現する活動の充実を図っていきたい。

【課題と指導改善に向けて】

〈A区分問題〉

円周率の意味について理解しているがどうかをみる問題では、全国値を上回る結果となったが、正答率としては低いほうであった。円周の直径に対する割合が一定であり、円周の直径に対する割合のことを円周率ということを理解していないと考えられる。

直径と円周の関係を調べる学習では、どのような大きさの円についても、円周の直径に対する割合（円周率）が一定であることを、帰納的に考え見いだすことが重要である。その際、実際に幾つかの円について、直径の長さや円周の長さを測定する活動などが大切である。さらに、円周率の意味の理解を基に、円周の長さが直径の長さに比例することや、直径の長さから円周の長さを、また、逆に円周の長さから直径の長さを求めることができるなど、直径、円周、円周率の関係についても理解できるようにすることも重要である。

〈B区分問題〉

全体的に低かったもののほかの設問と比べて特に無回答率が高くなっていた問題があり、それは日常の事象を、グラフの特徴をもとに、複数の観点で考察したり表現したりすることができるかをみるものであった。

資料を分類整理する学習では、目的をもち、必要な情報とその収集方法を考え、収集した情報をもとに自ら結論をまとめ、数学的に表現することが重要である。

そのために、例えば、日常生活の中で主体的に問題を見いだして情報を収集し、表やグラフなどに整理して考察し表現したり、考察した結果から新たな問題を見だし、さらに情報を収集し表やグラフなどに整理し直して考察したりできる児童の育成を図る。

●理科 《概要》

◎理科A区分問題（『主として知識』に関する問題）

- ◇全国値を上回っており、概ね良好な結果であった。
- ◇基礎的・基本的な算数に関する知識・技能が身につけていると考えられる。

◎理科B区分問題（『主として活用』に関する問題）

- ◇全国値、大阪府値を上回っているものもあれば、ともに下回っているものもあるという結果に至った。
- ◇エネルギーの単元については、なかなか難しいものがあったと考えられる。

☆理科における成果と今後の指導改善点について

【成果と発展的指導に向けて】

地球に関する問題や粒子に関する問題では、正答率が全国平均を全ての項目で上回っており、日常の理科の学習における取り組みの成果が見受けられる。

今後も内容の理解を深める活動の充実を図っていきたい。

【課題と指導改善に向けて】

〈A区分問題〉

生命に関する問題では、全国値を上回る結果となったが、正答率としては低いほうであった。漢字で書けてない率が高かった。

それ以外の問題では全国値も上回り、無回答率も低かった。今後も内容の理解を深める活動の充実を図っていきたい。

〈B区分問題〉

エネルギーに関する問題では全てにおいて全国と同率もしくは下回っており、無回答率も高かつ

た。

また、電流の流れ方について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想するのが難しかったと考える。そのため、事前に考えていた予想や仮説を実験後に検討し、見直したり振り返ったりすることで、多面的に考察することにより、より妥当な考えを作り出すことの重要性について意識して授業の改善を図っていく。

2. 児童アンケートに関する調査の傾向と今後の改善点について

【規則正しい生活習慣】

毎日朝食をとっている児童は9割、朝食をまったくとっていないは0人と朝食を何かしらとっていることが伺える。決まった時間に就寝する児童が7割7分に対し、決まった時間に起床している児童は8割7分と1割が睡眠時間にばらつきがあることがわかる。

テレビ・DVDを視聴する時間やゲームをする時間、携帯電話で通話・メール・インターネットをする時間が4時間以上と答えた児童の割合が全国に比べて多い。また「テレビやゲームをする時間を家の人と決めている」では、全国に比べて割合が低い。概ね生活リズムが整っているといえるが、テレビ・ゲーム・インターネットなどの使い方を見直す必要がある。

【自己肯定感】

「ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある」という経験をほぼ9割の児童ができており全国を上回っているが、「難しいことでも失敗をおそれないで挑戦している」では7割程度に留まっている。

自己肯定感が高いと言えるが、失敗をおそれずに挑戦しようとする気持ちや将来に対して前向きな意識をより育てていく取り組みを設定する必要がある。

【家庭生活の様子・家庭学習】

「家で学校の宿題をしていますか」では、9割5分以上の児童が肯定しているが、「家で自分で計画を立てて勉強していますか」を自信をもって肯定的に答えられている児童は少ない。家庭学習は定着しているといえる。後は決められている宿題だけではなく、児童自らが課題を見出し、取り組む自学自習の習慣を身につけるよう、機会を設定する必要がある。

また「読書はするか」「新聞を読みますか」といった活字を読むことにおいて、全国よりも肯定的な回答が多い。「学校図書室や地域の図書館の利用」頻度に関しても、全国よりも高い傾向が見られた。朝読書や読み伝えをはじめとし、児童による主体的な図書館利用・読書活動に取り組んできた成果といえる。

【学校生活・授業】

「学校で、好きな授業がある」では、9割5分以上の児童が肯定している。児童が自分の考えを表現できる場を設定するだけでなく、有意義な学校生活を送ることができるように継続的に授業改善を行っていくようにする。

「人が困っているときは、進んで助けているか」や「人の役に立つ人間になりたいと思うか」や「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」の項目では、8割強の児童が肯定しているが1割弱の児童が否定的にとらえている。規範意識とともに健全な正義感が育まれていく取り組みを増やす必要がある。

国語科に関しては、「国語の勉強は大切だと思いますか」では、9割以上の児童が大切だと考えている。国語科の学習に意欲的に取り組む様子がうかがえる。一方で、「目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている」という項目では、6割強に留まっている。「自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいか」という項目では、そうではないと回答する児童が半数おり、全国を上回っているものの苦手意識を改善する必要がある。「話す・聞く」や「書く」活動でも、話し方・書き方を提示するための手立てをとり、全体を向上させていきたい。